

法統継承に際しての消息

専如さまが第25代門主に就任

本願寺新報
hongwanji journal

6月6日(金曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) / FAX 075(341)7753

号 外

本日、法統を継承 初の「ご消息」ご発布

第24代即如ご門主から法統を継承され、専如さまが第25代門主に就任された。5日の「御譲渡式」を終え、本日6日に御影堂で行われた「法統継承式」の「式典」で専如ご門主は満堂の参拝者を前に、初の「ご消息」となる「法統継承に際しての消息」を発布された。「ご消息」とはお手紙のこと。特に浄土真宗では、さまさまなご縁に際して、歴代の宗主が、そのおこころを広く伝えるために出される書簡をいう。

本日、私は先代門主の意に従い、法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主に就任いたしました。

ここに先代門主の長きにわたるご教導に深く感謝しますとともに、法統を継承した責任の重さを思い、能う限りの努力をいたす決意であります。

釈尊の説き明かされた阿弥陀如来のご本願の救いは、七高僧の教えを承けた宗祖親鸞聖人によって、浄土真宗というご法義として明らかにされ、その後、歴代の宗主方を中心として、多くの方々に支えられ、現代まで伝えられてきました。その流れを受け継いで今ここに法統を継承し、未来に向けてご法義が伝えられていきますよう、力を尽くしたいと思います。

宗門の過去をふりかえりますと、あるいは時代の常識に疑問を抱かなかったことによる対応、あるいは宗門を存続させるための苦渋の選択としての対応など、ご法義に順っていないと思える対応もなされてきました。このような過去に学び、時代の常識を無批判に受け入れることがないよう、また苦渋の選択が必要になる社会が再び到来しないよう、注意深く見極めていく必要があります。

宗門の現況を考えます時、各寺院にご縁のある方々への伝道はもちろんのこと、寺院にご縁のない方々に対して、いかにはたらきかけていくのかを考えることも重要です。本願念仏のご法義は、時代や社会が変化しても変わることはありませんが、ご法義の伝え方は、その変化につれて変わっていくかねばならないでしょう。現代という時代において、どのようなしてご法義を伝えていくのか、宗門の英知を結集する必要があります。

また、現代のさまざま問題にどのように取り組むのか、とりわけ、東日本大震災をはじめとする多くの被災地の復興をどのように支援していくのかなど、問題は山積しています。

「自信教人信」のお言葉をいただき、現代の苦悩とともに背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んでまいりたいと思います。

平成二十六年
二〇一四年

六月六日

龍谷門主 釋 専如